

令和 2 年 9 月 18 日現在

機関番号：37301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04904

研究課題名(和文) 中華人民共和国の新しい統合道徳教科書と日本の比較を基礎にした道徳授業改善研究

研究課題名(英文) A study on improving moral education lesson based on a new integrated moral textbook of the People's Republic of China in comparison with Japan

研究代表者

上蘭 恒太郎 (kamizono, kohtaro)

長崎総合科学大学・共通教育部門・特任教授

研究者番号：50128005

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：中華人民共和国(中国)は、多網多本の時期に16種類ほどあった道徳教科書を、2017年9月から小・中学校で国定教科書一種類に集約し、2020年に完成予定である。その記述について、生命尊重や自己肯定感を軸に、政治の動きや授業実践を含めて論じた。そして中国国定道徳教科書は、個人のケアを視野に入れて記述するが向-社会的あるいは国家的であり、個人を社会や国家と関わる意味ある生き方へと促す、と結論づけた。比較して日本の道徳教科書は、公共性を要請しながら個人の内面のふり返りによって充実した生を語る、とした。さらに、民主主義の基盤である自己肯定感を育む道徳授業をどう構成すべきか、道徳授業実践を展開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教科化した日本の道徳教育、国定化した中華人民共和国国定道徳教科書を軸に論じ、アジアにおける日本の教育方向を、子どもの自己肯定感の育成だと論じ、授業構成を明らかにした。1. 聞く資料の扱い 2. 見通しのある授業 3. 協同の学び 4. 考える枠組み 5. 振り返り 6. 授業評価である。これにより、多様な子どもを包摂でき、子どもの自己肯定感が育つ。生命尊重など道徳の主要価値は、総合的な学習とおこなって、深く考え自己肯定感を育む授業になると授業実践を通じて論じた。

研究成果の概要(英文)：The People's Republic of China (China) has changed the moral textbooks from about 16 different types to one national moral textbook from September 2017. The textbooks will be integrated into one for elementary and junior high schools, and will be completed in 2020. This paper discusses the description of this textbook, focusing on respect for life and self-affirmative consciousness, including political developments and classroom practice. I conclude that Chinese moral textbooks are describing personal caring but essentially pro-social and encourage individuals to live meaningfully in relation to society and the state. In comparison, Japanese moral textbooks are pro-individual and a way of enriching the individual life by reflecting on his or her inner meaning. I have also discussed how to structure moral education lesson to foster self-affirmative consciousness, which is the foundation of democracy, and practiced how the moral education lesson should be constructed.

研究分野：教育哲学・道徳教育

キーワード：自己肯定感 中華人民共和国の国定道徳教科書 連想法 生命尊重

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本において教科書検定がおこなわれ、2018年度小学校で、中学校で2019年度から「特別の教科 道徳」(道徳科)に変わる時期であり、中国においては2017年から道徳教科書が国定化の方向に変わる時期であり、国家主義の方向に道徳教育が集約される時であった。この時に、道徳教科書をどのように作成し、授業を進めるか、民主主義を支える道徳授業のために、中国の道徳教科書と道徳教育を鏡とする意味があった。

### 2. 研究の目的

中華人民共和国の「法治」を掲げた国定道徳教科書を、日本の検定済み道徳教科書と比較し、授業として子どもの意識レベルにおける変容を解明し、自己肯定感を育む道徳授業に活用する。

1. 中華人民共和国の道徳教育は、課程標準と教科書がねじれた状態にあるが、国定教科書の姿をいち早く解明する。

2. 日本の検定済み道徳教科書と比較検討し、各政治体制下の教科書体系のもつ意味を、教科書比較ならびに道徳授業を通じて、子どもの意識の次元において明らかにする。

3. 子どもの意識次元での授業評価を量的にまた質的に明らかにするための連想処理プログラムについて、中国語版を作成する。

### 3. 研究の方法

研究として、文献研究、授業分析ツールの整備、実践として、授業の実施を組み込んだサイクルによって、特に日本の子どもと学校へと還元し、その成果発表までをおこなう。

1. (文献研究) 中華人民共和国ならびに日本における道徳教科書の収集。また道徳教育関連論考、中国共産党に関わる文献研究。

2. (授業分析プログラムの整備) 授業分析ツールとしての、エクセルのアドインとして機能する連想法プログラムの整備、中国語版の作成。

3. (自己肯定感を育成する授業実践) 民主主義を支える自己肯定感育成のための道徳授業実施と授業評価研究。

4. (成果公表) 中華人民共和国の道徳教科書研究成果の発表と、日本国内への道徳授業実践としての還元、ならびに研究論文発表。

### 4. 研究成果

2020年度に全貌を現す中華人民共和国の国定道徳教科書について、日本の小学校8社、中学校8社の検定済み道徳教科書と比較し、生命尊重を軸に、自己肯定感育成について検討した。

成果は2019年のものとして、1.上海での教員中心の研究会基調講演、2.日本道徳教育学会広島大会発表、3.「中華人民共和国の国定道徳教科書における生命尊重」の論考になり、日本の道徳教科書について自己肯定感への総合が必要だと論じた。同方向は、4.映画を使う総合的な学習において、生命教育から自己肯定感を育成できるとのAPNMEでの発表でも一貫している。また自己肯定感測定の臨床技法である連想法について、5.異なる母集団での連想マップの様相の異動、6.技能習熟と意識・態度との関係の基礎研究発表を行い、以下の成果を得た。○Using a Movie to Enhance Students' Self-Affirmative Consciousness and Their Respect for Life (単著)のAPNME(アジア太平洋道徳教育学会)発表、2019年6月バリ島○連想法を用いた授業評価の母集団に対する依存性(共著)、日本情報科教育学会(JAEIS)第12回全国大会、2019年7月、pp.15-16○生命教育の方向：子どもの自己肯定感への総合、中日生命教育教學交流検討会での講演、2020年1月上海○タイピング打鍵数とExcel機能の習熟との関連(共著)、画像電子学会研究会画像電子学会第292回研究会、2020年2月、pp.35-38○中華人民共和国の国定道徳教科書における生命尊重(単著)長崎総合科学大学紀要第60巻第1号、2020年6月、pp.1-33。

以上を踏まえて、7.子どもの心の回復(レジリエンス)の道徳授業を熊本県玉名市中学校2年生で2回実施し、8.成長の力を宿す龍の道徳授業を長崎市の小学校5年生で実施、それぞれ子どもの自己肯定感を育成した。総じて、日中教科書比較は日本の道徳科教科書改善提言に、また3つの新しい授業実践につながる大きな成果を得た。

以下、I. 中国の国定道徳教科書の特質とそれを鏡にして日本の道徳教科書がどうあるべきかについて、II. 自己肯定感を育む道徳授業の要件、の2点について述べる。

I. 「中華人民共和国の国定道徳教科書における生命尊重」(長崎総合科学大学紀要第60巻第1号、pp.1-33、2020)によって、中国道徳教科書の特色について生命尊重を軸に述べ、日本の教科書構成を論じる。

中国で国慶節を前に頻りに流される歌に「紅旗飄飄」がある。国旗「五星紅旗」を讃えて、「あなたの名前は私の命よりもっと重要だ」と4回繰り返す高揚感からすると、中国国定教科書の生命尊重の記述は抑制されている。しかし、アヘン戦争・抗日戦争と続く屈辱の歴史から中国共産党のもとで滅亡から救われた、その過程を担った英雄烈士称揚は当然であり、彼らにより今日小康社会に至っているとの物語の揺るぎなさ、また「死への存在」として「予知不能な生命に悠然と向き合い、生命を熱愛できるように導く」(教師教學用書、171頁)構え、「最も美しい」線路補修員やトラック運転手の賛美は、「紅旗飄飄」の高揚感の基盤となる。中国国定道徳教科書の生命尊重が準備する基盤は、道徳教育体系の最終冊である『道徳と法治』9年級下の高揚感へとつながり、その道程は中国共産党第19回全国代表大会の決議に導かれている。体系化された

中国国定道徳教科書体系で、専任の教員が教え、子どもを評価する、中国の道徳教育は力強い。

これに比べると日本の道徳教育は、戦後の出発以来、変わらず控えめである。控えめさは修身科の反省を基盤にしている。とはいえ、中国国定道徳教育に学ぶ点がある。以下、注目すべき中国国定道徳教科書の生命尊重、ならびに中国道徳教科書を越える方途を 10 点を挙げる。

1 つは、中国国定道徳教科書が死を生命尊重の冒頭に書く点である。行きつくところ、いかに生命の花を咲かせるかに繋ぎ、第 7 学年上冊生命的思考の最後は、平凡な生でも個人の生命を他の人や社会、集団、民族、国家、人類の運命と結びつけて「美しい補修員」「美しい運転手」になると結ぶ。この構成は教育勅語のように「一旦緩急アレハ」と、国家のために生命をと言う形ではない。死を取り上げる必要は今日日本においてある。青少年の自死の多さ、「いじめの問題への対応の充実」のために必要である。

2 つには、日本においても道徳教育の各価値の結節点を意識すべきである。中国では総合課程化により徳目を並べて教える道徳教育を抜け出したが、その体系的統合に 3 点ある。

(1) 生命尊重の単元に見たように、価値を単元として集約する点にあり、

(2) 教科を統合した総合課程として道徳教育を編成する点であり、

(3) 中国共産党の方針へと各学年の記述ならびに教科書を統合する点にある。

これに匹敵する日本の道徳教育の体系性は、以下のように考えられる。

(1) 価値を並べて教える values education は、各学年で繰り返すよさがあるが、生命尊重のような重点価値は、単元として構成する課程編成を考える。

(2) 複数の教科の場で繋がる項目として教科間の連携によって価値を扱うことが、子どもの意識において繋がりのある道徳教育になる。

(3) 道徳教育は子どもを育てたいのだから、子どもの自己肯定感を結節点として価値を統合する道筋を示すと、日本流の values education が力強くなる。

道徳教育の体系性は、民主主義を標榜する日本においては、子どもの意識へと、それも子どもの自己肯定感へと、価値を繋ぐ統合に意味がある。育てたいのは、自分で考え判断する子どもであり、自己肯定感育成に各価値を繋ぐとき、価値項目のばらばらが解消される。

3 つには、問いに重きをおく構成が、深く考える道徳教科書を構成する。これは PISA 型のクイパビリティを育てる道徳教育の方向を示している。中国国定道徳教科書の「探求と分かち合い」は多く、問いとして構成される。問いとして、異なる思考を並べ、協同で考えるように工夫され、現実を問題提起する記述を見ることが出来る。日本は、価値判断として結果する答えの多様をよしとする社会構成だから、答に至る思考過程に重きをおく道徳の時間を編成すべきである。

4 つには、心理的な配慮、心理的な見地からの自己分析、導き、そして挫折について中国の道徳教科書が手厚く扱う点を、学んでいい。中国国定道徳教科書は、挫折に関する記述に厚みがある。日本で心理学と結んだ要素は、ジレンマ授業、グループ・エンカウンター、モラル・スキルトレーニングなど、道徳授業方法として取り沙汰されることが多いが、教育学と心理学が手を取り合って授業の背景を固めた教科書記述を志向していい。日本の道徳教科書に必要な一つは、挫折そしてレジリエンスに関する記述であり、いじめと、10 歳代、20 歳代、30 歳代における自死の多さに対応するために、子どもが自分を意識的に支える方途を道徳教科書に描くべきである。

5 つには、授業の方法として、グループ学習あるいは協同の学びを前提にした授業資料を載せるべきである。中国国定道徳教科書は、一斉授業でも使えるように構成されるが、そして筆者が訪れる限り授業者中心のやりとりが多いが、グループ学習や協同の学びを導入して子ども同士で話し合い、探求するように構成されている。日本で、現在の教科書の小話をグループで話し合うに止まらず、協同で解決へと向かう社会問題、地域の課題を提示していい。道徳教科書が、民主主義社会の責任ある市民として考え、判断するところに踏み込んでいい。

6 つには、夢の扱い方の相違を挙げる。中国の国定道徳教科書は、習近平の語る中国の夢を個人の夢と結びつけるように促す。日本の学習指導要領は、「夢と現実との違い」の文言に見るように、現実から離れた夢を警戒する。夢が、個人の課題として設定され、夢によって社会の現実を変えるイノベーションの発想は見られない。

7 つには、中国の道徳教科書の視野が人類にまで広がる点である。『道徳と法治』九年級下冊は第一単元第一課「地球村に同居する」、第二課「人類運命共同体を構築する」と記述する。第 9 学年の第二単元は「世界の舞台に立つ中国」であり、第三単元が「未来に向かって進む少年」である。この気宇壮大さは、15 歳前後の生徒を高揚させ、人類運命共同体を構築しようと呼びかける中国国家建設参加に胸躍らせるだろう。これをアジテーションと評することは出来る、しかし現在の中国の雰囲気である。日本の場合、人類という立場に立つ道徳性を語っていい。

8 つには、日本において取り上げるべきテーマとして、ゲノム研究、化学肥料、エネルギー、原子爆弾を含む、科学技術の在り方を挙げておく。近代の科学技術による人間の殺戮を考えると、戦争に用いられる兵器だけではなく、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく、PM2.5 など粒子状物質、マイクロプラスチックによる海洋汚染、石炭・石油エネルギーなど化石燃料使用、つまり人類が生物の多様性と生存に回復不可能な影響を及ぼしうる人新世 (Anthropocene) に至ったとき、科学技術の在り方を考え判断する市民の育成を道徳教育として扱う必要がある。

9 つには、日本において取り上げるべきテーマとして、子どもの権利を含む人権を挙げておく。道徳教育が子ども個人の話に閉じこもらず、子どもの意識を法に繋ぐと同時に国連人権委員会で認識された子どもの権利を語るべきである。

10 には、日本において取り上げるべき考えとして、批判的思考を挙げる。道徳授業において深

く考えるには、他者との論議を媒介しながらの批判的思考が不可欠である。批判的思考は、子どもが、多面的に、問主観的に考え、内省するために必要な資質能力だと意識されるべきである。どう考えるかを考えるメタ思考は哲学であり、子どものための哲学や P4C もどう考えるかを扱う。道徳教育において考える道具を意識することが、心情を育むとともに、日本に必要である。II. 「自己肯定感を育てる道徳授業の構成--「ミサゴのいる山」の物語を例に」(長崎総合科学大学紀要第 57 巻第 2 号, pp.61-91) によって、自己肯定感を育む道徳授業構成を 6 点に要約する。

1. 聞く資料 (Listening method of a learning material)。聞く資料の要諦は、印刷物の読み取りに傾く授業ではなく、語り聞かせによって進める点にある。語り聞かせる資料提示は、子どもの側では、聞く資料になる。協同の学びの形にすると、聞きのがしても (1)子ども同士で情報を補い合うことができる、(2)課題解決に向けた集団の意識が育ち、聞き取った素材で自分の思考に集中できる。(3)難しい言葉のある資料も教室に持ち込むことができ、資料選択の幅を広げる、(4)聞き逃しは子どもが必要としなかったところだと、子どもの選択に任せて、資料を捨てていい。

2. 見通しのある授業 (Lesson with perspectives)。(1)授業の最初に、ねらいを子どもの言葉によって提示すると、解決すべき課題と授業の方向をわかった上で、子どもが主体的に参加できる。(2)発問を口頭で伝えるだけでなく、授業の流れに乗りにくい子どもにも今何をやるかを補助黒板またはプロジェクトで明示し、発問や作業手順を掲示する、すなわち授業進行を視覚化する。

3. 協同の学び (Cooperative learning)。自分で考え、自分たちで考え、教室全体で考える段階を組み込む協同の学びは、(1)学校に行く目的が友だちと会うという動機を授業の推進力にして、友だちと話す楽しさを授業に持ち込むとともに、(2)一人で考える以上の思考の飛躍を、レフ・ヴィゴツキーやスコット・ペイジを持ち出すまでもなく、もたらず魅力がある。道徳授業も、新しく学ぶところのある場でなければならない。(3)新しい学びは、子どもたち自身が発見する形でありたい。(4)協同の学びにおける対話は、哲学者のような自己内対話、ソクラテスのような二人での対話、井戸端会議のような 4 人ほどのグループでの対話、大人である教員を交えて公共性を帯びた教室全体での対話の 4 つの形式があり、どの対話形式をどう組み合わせかが学習指導案の構成である。授業者は、対話の組織者であってしかるべきだろう。また対話の形を考えると、椅子などをどう配置するか、ハード面の構成を考えることも学習指導案の考慮に入る。

4. 考える枠組み (Framework for thinking)。考える授業には、概念と思考の枠組みを必要とする。主題と概念は提示される物語に示されるが、物語の内容をどう扱うか、思考の枠組みを示す方が考えやすい。枠組みの提示は、考える作業を進める例示の意味をもつ。

5. 振り返り (Reflection)。振り返りは、どの教科においても学力を育てる、道徳授業では自己肯定感に踏み込む役割を果たす。授業では、未来からの振り返り子どもに要請した。

6. 授業評価 (Assessment of a lesson)。評価の必要は 3 つある。(1)授業者が、授業を振り返り、成長するために、欠かせない。(2)子どもが自分の成長を自己評価するために必要である。自分が獲得したものを振り返って確かめることは、授業における成長を確かめる自己評価である。(3)評価において、教員による子どもの評価は子ども自身による評価とすりあわせておこなわれるべきであり、授業に参加しての子どもの感想、振り返りシートなど、子どもの授業評価と自己評価がそのまま、子どものポートフォリオ評価になり、教員による評価のエビデンスになる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 梅本雄史, 田中賢一, 上園恒太郎	4. 巻 第12回全国大会
2. 論文標題 連想法を用いた授業評価の母集団に対する依存性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本情報科教育学会 (JAEIS) 第12回全国大会	6. 最初と最後の頁 15-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅本雄史, 田中賢一, 上園恒太郎	4. 巻 第292回研究会
2. 論文標題 タイピング打鍵数とExcel機能の習熟との関連	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 画像電子学会研究会画像電子学会第292回研究会	6. 最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上園恒太郎	4. 巻 60-1
2. 論文標題 中華人民共和国の国定道徳教科書における生命尊重	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 長崎総合科学大学紀要 第60巻第1号	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上園恒太郎, 森永謙二	4. 巻 57巻2号
2. 論文標題 自己肯定感を育てる道徳授業の構成 「ミサゴのいる山」の物語を例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長崎総合科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 61-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamizono Kohtaro	4. 巻 58巻1号
2. 論文標題 Inclusion and Integration: Moral Education Lessons in Japan and China	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長崎総合科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上園恒太郎	4. 巻 58巻2号
2. 論文標題 生命尊重の総合的な学習を広げる映画活用の提案 中学生が映画「うまれる」を観て思ったこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長崎総合科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 67-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamizono Kohtaro, Morinaga Kenji, Chen, Yen-Hsin, Min-Yun, Yang, Yi-Lung, Chiu	4. 巻 59巻1号
2. 論文標題 A Moral Education Lesson to Enhance Self-Affirmative Consciousness in Japan and Taiwan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長崎総合科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 梅本雄史, 田中顕一, 上園恒太郎	4. 巻 第12回研究会報告書
2. 論文標題 情報科教育における連想法を用いた授業評価フレームワーク活用の一検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本情報科教育学会	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅本雄史, 田中顕一, 上園恒太郎	4. 巻 第11回全国全国大会講演論文集
2. 論文標題 プログラミング教育がもたらす情報科イノベーションの形	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本情報科教育学会	6. 最初と最後の頁 47-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上園恒太郎	4. 巻 第44巻
2. 論文標題 聞く資料による道徳授業 - 子どもの自己肯定感を育むために -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 九州教育学会研究紀要第44巻	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上園恒太郎	4. 巻 57巻2号
2. 論文標題 自己肯定感を育てる道徳授業の構成 - 「ミサゴのいる山」の物語を例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長崎総合科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 61-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Kamizono Kohtaro
2. 発表標題 Using a Movie to Enhance Students' Self-Affirmative Consciousness and Their Respect for Life
3. 学会等名 Asia Pacific Network for Moral Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上園恒太郎
2. 発表標題 中華人民共和国の国定道徳教科書における生命尊重
3. 学会等名 日本道徳教育方法学会94回広島大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森永謙二, 上園恒太郎
2. 発表標題 レジリエンスを主題にした道徳科授業：エビデンスによる臨床授業 - 自己肯定感を育成する要として -
3. 学会等名 日本道徳教育方法学会第26回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡崎耕, 上園恒太郎
2. 発表標題 エビデンスによる臨床授業：成長の力を心に宿す道徳授業 - 自己肯定感を育成する学級づくりの要として -
3. 学会等名 日本道徳教育方法学会第26回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上園恒太郎
2. 発表標題 生命教育の方向：子どもの自己肯定感への総合
3. 学会等名 中日生命教育教学交流検討会（招待講演）
4. 発表年 2020年



〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----